



# どんぐり

No.55

兵庫県立  
南但馬自然学校

HYOGO KENRITU MNAMI TAJIMA SHIZEN GAKKO  
(Nature Education Center)

# 南但馬自然学校で楽しく遊ぼう



兵庫県立南但馬自然学校

副校長 内橋 紀裕

雑木林や棚田など、のどかな里山の風景が広がる朝来山のもとに南但馬自然学校があります。92haの広大な敷地内には、変化に富んだ自然環境があり、自然を身近に感じながら様々な体験をすることが出来ます。また、学校周辺には、円山川親水公園、竹田城跡、ヒメハナ公園などの学習環境も整備されており、地域の自然や歴史等にふれ親しむことも出来ます。

毎年、これらの恵まれた環境を活用して自然学校が実施されます。各学校の実情や教育目標により内容は異なりますが、自然学校における目標を明確にし、普段の教育活動との関連を図りながら、子どもたちの発達段階や興味・関心に配慮した特色ある活動が展開されています。各学校ともに、「自然・人・地域とのふれあい」を基に体験的な学習を活動の基本において、子どもたちがより大きな達成感や成就感、また充実感を得ることができるよう創意工夫を



こうしたプログラムを実践しています。例えば、「双眼鏡を持って自然散策に出かける」「火おこし器を使って野外炊事をする」「勇気を出して一人用テントに宿泊する」「雲海を見るために早朝登山に挑戦する」「ウォークラリーで地域の歴史を学ぶ」などです。子どもたちは、これらの活動や集団生活を通して、お互

いに責任を持ち協力しながら自然との感動的な出会いや新たな気づきを体験していきます。

昨年の6月、校内で子鹿が生まれました。偶然、その場に居合わせた先生や子どもたちが一部始終を見ていたそうです。日常の生活ではまず体験できない自然の荘厳さや命の大切さを感じた出来事でした。

南但馬自然学校では、このような野生動物や植物など四季折々の自然を紹介する「自然のページ」をHPに掲載しています。

## 〈自然のページ一部抜粋〉

「フイ、フイフイ」茂みの中から細かい鳴き声が聞こえてきます。「おや・・・？」立ち止まり聞き耳を立てると、やっぱりそうです。この声は今季初めて聞くベニマシコのものに間違いありません。ベニマシコは・中略・寒くなる時季には、本州、四国、九州などへ移動して越冬する渡り鳥です。」

子どもたちは、自然学校が始まるまでに自然や地域のことを調べたり、ロープワークなどの技術を習得したりとさまざまな準備をして本番に臨んでいます。活動内容によっては専門的な知見を有する指導者のアドバイスを受けながら実施することも高い効果が望める方法です。

## 表紙の写真

### オオイヌノフグリ

3月に入ると田んぼの畦などに、オオイヌノフグリが瑠璃色の花を咲かせます。「花が小さい分は数で勝負」とばかり、辺り一面に咲かせた花は壮観ですが、ひとつひとつの花をルーペで拡大して観るのもよいものです。

ではその観察法を紹介しましょう。まず、太陽を自分の正面に見て逆光線が花に当たるポジションをとります。次に思い切って地面に腹這いになりルーペをのぞき込むと、すっかり見過ごしてしまいそうなほど小さなオオイヌノフグリの花びらが、柔らかな春の陽に透けて豊かなグラデーションを満喫させてくれます。是非、みなさんもルーペ片手に田んぼへ出かけてください。

平成21年度は、技術指導員として、星空観察や自然散策、草木染めやクラフト、地域の史跡や歴史・民話などの18分野に25名の方が登録されました。鳥の鳴き声を聞いたり、きれいな花を見つけた時、その場で自然のページにあるような説明やアドバイスを受けることができれば、子どもたちの興味・関心もさらに深まり、より豊かな体験活動になるでしょう。どうしようかと迷われたときは、是非本校職員にご相談ください。

# 平成21年度 特色ある活動

平成21年度は5月11日～12月18日までの間に県下各地の69校（利用児童延べ人数21、382人）が本校で活動しました。

今年度本校で実施された自然学校の中から、「自然学校の一層の充実を図るための6つの方策」に関連した特色ある活動を紹介します。

## 方策1

自然学校と他の教育活動との関連を図る取組の充実

## 植樹活動

9月7日(月)～9月11日(金)  
明石市立魚住小学校

魚住小学校児童163名は、「自然に関心を持ち、自分から学ぶ」「自然の中で仲間と存分にふれあい、助け合いの心を育てる」「考えて最後までやり抜く力を育てる」をテーマに入校してきました。

紹介する特色ある活動は、環境教育として取り組んだ「植樹活動」です。

子どもたちは講師である南但馬自然学校の技術指導員の方から植樹のねらいや植樹の方法についての話を聞いた後、心を込めて苗木を朝来山に植樹しました。苗木は、この日のために学校で大きく育てて持ってきたものです。里山を大切にしようという思いで植えたこの苗木が大きく育ち、南但馬自然学校がどんぐりの木でいっぱいになることを願っています。



【朝来山に植樹をしよう（魚住小）】

## 方策2

事前・事後の学習活動の一層の充実

## 隠れ家づくりに挑戦

6月1日(月)～6月5日(金)  
赤穂市立塩屋小学校

塩屋小学校児童117名は、「自然に感謝・仲間に感謝・感謝の心で響き合い」をテーマに、事前学習として「ロープワークの達人になろう」と題し、「本結び」「ふた結び」「ロープテール」「すじかいしぼり」などの結び方を学習して入校してきました。紹介する特色ある活動は、たっぷり

と時間をとって取り組んだ「隠れ家づくり」です。

子どもたちはフィールド内にある木を集め、上手にロープで縛りながら隠れ家を完成させました。事前学習で身につけたロープワークの技術を生かしてブランコを取り付けるなど、みんな協力して、自信を持って取り組んでいる姿が印象的でした。



【隠れ家で遊ぼう（塩屋小）】

## 方策3

学校では得難い体験活動プログラムの二層の充実

## 二度の火おこしに挑戦

12月7日(月)～12月11日(金)  
福岡町立田原小学校

田原小学校児童79名は、「友情・責任・忍耐」をテーマに入校してきました。子どもたちは、ゆったりとしたプログラムの中で、協力し合いながら、生き生きと活動に取り組んでいました。紹介する特色ある活動は、「二度の

火おこし体験」です。

「火おこしを通して、昔の人たちの苦勞を学び、火のありがたさと正しい使い方を知る」というねらいのもと、舞がり式の火おこし器を使った活動を2日間にわたり設定しました。

1日目に火おこしに失敗した班も、2日目に再度チャレンジし見事成功。失敗しても再度やり直せるという長期宿泊体験ならではの取組であり、火がついたときには各班から歓声があり、その火を使ってカレイライスづくりに取り組みました。



【みんなで協力して火おこし（田原小）】



**方策4**  
社会性や自立性等を育むための  
集団活動の充実

## 朝来山登山

11月24日(火)～11月28日(土)  
加西市立富田・賀茂小学校連合

富田小学校27名、賀茂小学校46名の合計73名は、「協力」をテーマに入校してきました。連合実施ということもあり、新しい友だちとコミュニケーションをとりながら活動に取り組みました。

紹介する特色ある活動は、「食材の買い出しウォークラリー」と「早朝登山」です。

「ウォークラリー」ではみんなで相談しながら協力して野外炊事の食材を調達しました。

「早朝登山」ではお互いに励まし合いながら朝来山の頂上まで登り切りま



【雲海が見えたぞ！（富田・賀茂小）】

した。  
子どもたちは、どの活動においてもしっかりと協力できており、日に日に仲良くなっていくのが実感できました。

**方策5**  
子どもの成長過程を踏まえた体験  
活動の充実

## セレクトタイム

10月26日(月)～10月30日(金)  
宝塚市立西谷小学校

西谷小学校児童25名は、「豊かな自然の中でふだん学校ではできない様々な体験や活動を通して、視野を広げるとともに自主自立の精神を養う」「集団宿泊生活を通して仲間意識を深める」「施設周辺地域社会の生活・文化・歴史などにふれる」をテーマに入校してきました。

紹介する特色ある活動は「セレクト



【サイクリングに挑戦（西谷小）】

タイム」です。

子どもたちの成長過程を踏まえ、興味・体力に合わせて、選択プログラムを2日間にわたり設定（1日は、サイクリング、自然探検、クラフトの3つの中から、もう1日はハイキング、隠れ家づくりの2つの中から選択）し、活動を行いました。自分で選択した活動に取り組むことで、どの活動においても子どもたちの生き生きとした表情がとても印象的でした。

**方策6**  
家庭や地域との一層の連携を図る  
取組の充実

## 地域ボランティアとの交流

10月12日(月)～10月16日(金)  
三木市立中・東・上吉川小学校連合

中吉川小学校18名、東吉川小学校18名、上吉川小学校10名の合計46名の児童は、「規律ある集団生活を通して、



【竹田城でエイエイオー！（中・東・上吉川小）】

友情や信頼関係を深める」「南但馬の自然にふれ、自然に対する豊かな感受性を育む」「竹田の町並み散策を通して、地域の良さに気づく」をテーマに入校してきました。

紹介する特色ある活動は、「竹田の城下町散策・竹田城登山」です。

「竹田の城下町散策」では、地域の人々と触れ合い、自分たちの住んでいる地域とは違う文化に触れることができました。「竹田城登山」では、地域ボランティアの方から歴史の話を聞くとともに、その方が作られた鎧や甲を身につけた児童もあり、戦国時代にタイムスリップしていました。  
(文責主任指導主事兼指導課長 高見 英明)

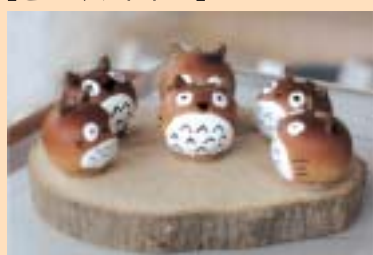
## クラフト紹介

### 【まつぼっくり】



まつぼっくりにカラースプレー（緑色等）を上下から吹き付けます。乾いたら、グルーガンで木の台座に固定します。モール、ビーズ、リボン等で飾り付けたら完成！

### 【どんぐりトトロ】



お腹にあたる部分は、白色の油性マーカー等で塗ります。乾いたら黒色の油性マジックで目、口、ひげ等を描きます。耳にねむの木の実をつけたらできあがり！

平成21年度 兵庫県立南但馬自然学校における傷病発生状況から

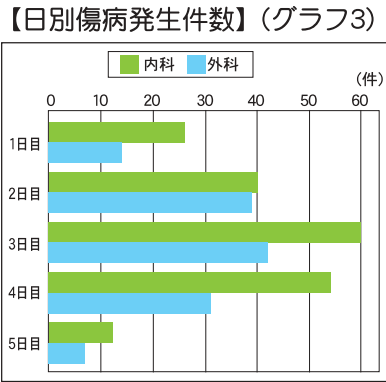
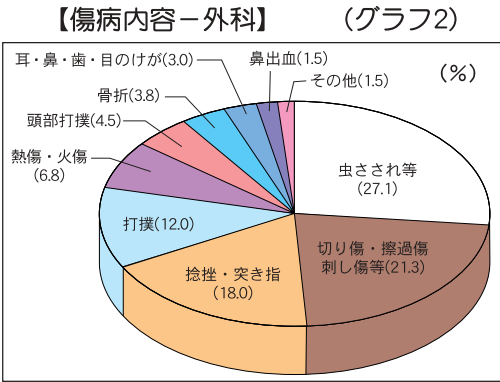
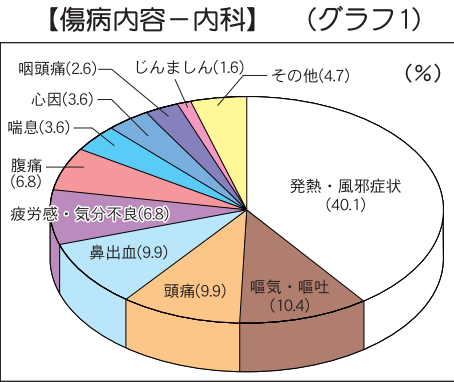
【傷病発生状況】 (表 1)

|                 | 内 科 | 外 科 | 合 計 |
|-----------------|-----|-----|-----|
| H21年度傷病発生件数(件)  | 192 | 133 | 325 |
| H21年度傷病発生率 (％)  | 0.9 | 0.6 | 1.5 |
| H20年度傷病発生率 (％)  | 0.3 | 0.4 | 0.7 |
| 16年間の平均傷病発生率(％) | 0.9 | 0.8 | 1.6 |

【医療機関受診状況】 (表 2)

|               | 内 科 | 外 科 | 合 計 |
|---------------|-----|-----|-----|
| H21年度受診件数(件)  | 38  | 27  | 65  |
| H21年度受診率 (％)  | 0.2 | 0.1 | 0.3 |
| H20年度受診率 (％)  | 0.2 | 0.1 | 0.3 |
| 16年間の平均受診率(％) | 0.1 | 0.1 | 0.2 |

※発生率・受診率は、処置件数を、利用児童延べ人数21,382人で割り、算出  
※小数第2位で四捨五入しているため、合計と合致していない項目があります。



1 傷病記録より

(1) 傷病発生状況及び医療機関受診状況

今年度の傷病発生状況は、表1のとおりで、傷病発生率については内科(0.3%→0.9%)、外科(0.4%→0.6%)とも昨年度に比べて大きく増加し、本校の16年間の平均傷病発生率と同程度になった。医療機関受診状況は、表2のとおりで、受診率については内科(0.2%→0.2%)、外科(0.1%→0.1%)とも昨年度と同程度であった。

内科の傷病発生率が増加したのは、新型インフルエンザ流行の影響が大きく、発熱や風邪様症状を訴える児童が多かったためだと考えられる。傷病発生率に比べ、医療機関受診率が昨年度と同程度だったのは、新型インフルエンザが疑われる体調不良者については学校側の判断により本校の近隣の医療機関を受診せず途中帰宅したケースが多かったためだと考えられる。

また、外科の傷病発生率が増加したのは、虫さされ等が昨年度の14件から今年度の36件と増えたためだと考えられる。医療機関受診率が昨年度と同程度だったのは、虫さされ等の軽度の傷病では医療機関を受診しなくてもすんだためだと考えられる。

(2) 傷病発生状況の内訳

内科の傷病発生状況の内訳は、グラフ1のとおりで、「発熱・風邪症状」「嘔気・嘔吐」「頭痛」と「鼻出血」の順で多い。外科の傷病発生状況の内訳は、グラフ2のとおりで、「虫さされ等」「切り傷・擦過傷・刺し傷等」「捻挫・突き指」の順で多い。

(3) 日別傷病発生件数

日別傷病発生件数は、グラフ3のとおりで、内科は3日目、4日目、2日目の順で、外科は3日目、2日目、4日目の順で多く、内科、外科ともに3日目にそのピークを迎えている。

その理由としては、自然学校の実施期間が5泊6日から4泊5日に短縮され1日あたりの活動数が増えたことで、ちょうど3日目あたりに疲労のピークを迎える子どもたちが多かったのではないかと考えられる。

また、本年度の特徴として入校前、入校後に新型インフルエンザに感染し、3日目、4日目に内科の傷病発生件数が多くなった。

2 健康・安全管理と自然学校

自然学校のねらいを達成し、充実した自然学校を実施するためには、子どもたちの健康・安全管理が特に重要な鍵となる。今年度は新型インフルエンザが大流行し、南但馬自然学校でもその影響を大きく受けた。本校においては、事前に新型インフルエンザや傷病発生時の対応について、実施校と共通理解を図りながら、安全な自然学校の実施に努めてきた。しかし、学校により予防に対する意識の違いも見られた。例えば、発熱等風邪様症状が発生してもマスクの着用等が徹底されていないケースもあり、そのことが原因かどうかははっきりしないが、傷病者が広がったケースもあった。予防に対する意識の違いが子どもたちの健康状態に影響を与えたのではないかと考えられる。

子どもたちが健康で安全に過ごすためには、プログラム全体の中で日々の子どもたちの疲労度を把握しながら、ゆとりの時間を設けることも必要である。そして、子どもたちの指導に関わる教員やそれを補助する指導補助員全員が子どもたちの健康、安全管理に対して共通理解を図ることが大切である。

(文責 指導主事 林 潤子)

平成21年度の兵庫県立南但馬自然学校の活動から

1 はじめに

平成21年度の本校での自然学校実施校数は、56団体69校（単独校47校、合同実施校9団体 22校）でした。実施期間の弾力化に伴い、1団体以外は4泊5日の実施となりました。また、新型インフルエンザの影響により、7団体（9校）が実施期日を変更し、唯一5泊6日の自然学校を計画していた1団体（4校）も実施期間を4泊5日に短縮しました。ここでは本年度本校で実施された自然学校の活動等を振り返ってみます。

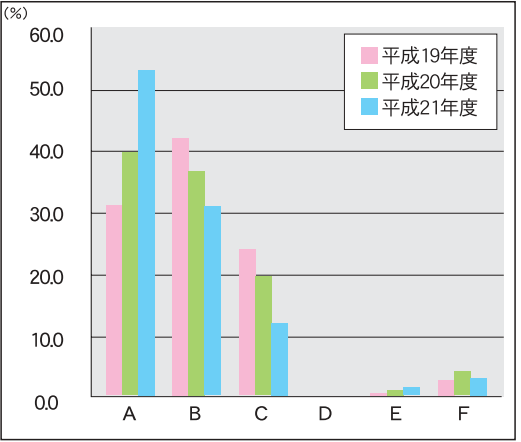
2 活動形態について

活動形態（延べ活動数と割合）

|      | 活動形態            | 平成21年度   |       | 平成20年度 | 平成19年度 |
|------|-----------------|----------|-------|--------|--------|
|      |                 | 延べ活動数(件) | 割合(%) | 割合(%)  | 割合(%)  |
| 一 斉  | A：全員で同じ活動を行う    | 380      | 52.9  | 39.6   | 30.9   |
|      | B：同じ活動を班単位で行う   | 221      | 30.8  | 36.4   | 42.0   |
|      | C：同じ活動を個々に行う    | 85       | 11.8  | 19.2   | 23.7   |
| 選 択  | D：学級単位で選択して活動する | 0        | 0.0   | 0.0    | 0.0    |
|      | E：班単位で選択して活動する  | 10       | 1.4   | 1.0    | 0.5    |
|      | F：個人単位で選択して活動する | 22       | 3.1   | 3.8    | 2.9    |
| 活動総数 |                 | 718      | 100.0 | 100.0  | 100.0  |

(平成21年度利用校数：69校 平成20年度：65校 平成19年度：74校)

活動形態（割合）



活動形態をみると、「A：全員で同じ活動を行う」が平成19年度が30.9%、平成20年度が39.6%を占めていたのに対し、平成21年度は52.9%と半数を超し、活動全体に占める割合が非常に高くなっています。逆に「B：班単位」や「C：個々」の活動が減少しています。実施期間が4泊5日に短縮されたことにより、比較的活動時間の見通しが利き、かつ指導しやすい「全員で同じ活動を行う」一斉指導の時間が増えたものと考えられます。

全員で一斉に活動することも大切ですが、児童の興味・関心を重視し、児童が取り組みたい活動や選択プログラムを設定することも大切にして欲しいです。

3 主な活動状況について

本校での活動（延べ活動数と活動率）

| 活動名                   | 延べ活動数(件) |        | 活動率(%) |        |
|-----------------------|----------|--------|--------|--------|
|                       | 21年度     | 20年度   | 21年度   | 20年度   |
| 1 野外炊事                | 86       | 99     | 154    | 180    |
| (内訳) 朝食               | 8        | 7      | 14     | 13     |
| 昼食                    | 53       | 66     | 95     | 120    |
| 夕食                    | 2        | 4      | 4      | 7      |
| 招待ランチ                 | 3        | 8      | 5      | 15     |
| その他（棒焼きパン・焼き芋）        | 20       | 14     | 36     | 25     |
| 2 クラフト                | 61       | 97     | 109    | 176    |
| 3 キャンプファイヤー・キャンドルサービス | 57       | 67     | 102    | 122    |
| 4 施設散策オリエンテーリング       | 45       | 39     | 80     | 71     |
| 5 はがき・手紙書き            | 41       | 42     | 73     | 76     |
| 6 朝来山登山（早朝）           | 39(24)   | 34(10) | 70(43) | 62(18) |
| 7 竹田城跡登山              | 20       | 21     | 36     | 38     |
| 7 火おこし                | 20       | 13     | 36     | 24     |
| 7 星空観察                | 20       | 26     | 36     | 47     |
| 10 隠れ家づくり（遊び・撤収含む）    | 18       | 39     | 32     | 71     |
| 11 サイクリング             | 13       | 26     | 23     | 47     |
| 12 テント泊               | 9        | 12     | 16     | 22     |
| 13 ナイトハイク             | 8        | 23     | 14     | 42     |

※活動率(%)は延べ活動数÷実施団体数×100で算出（21年度：56団体 20年度：55団体）

利用校の活動状況について着目してみると、「野外炊事」「クラフト」「キャンプファイヤー」は活動率100%を超えており、本校での自然学校の定番アクティビティ（アクティビティ：個々の具体的な目標やねらいをもった最小単位の活動のこと）となっています。「クラフト」の活動率が高いのは、登山や散策等での活動時にクラフト材料を集め、後日その材料を利用し「自然物クラフト」を実施したり、事前に「焼き板」となる板を焼き、後日絵付けをするなど、活動を数回に分けて実施していた学校が多いためです。

「施設散策オリエンテーリング」も80%と高い活動率です。入校直後にグループで協力し、楽しいクイズを解きながら施設内を散策し活動拠点となる場所等を児童が知ることができ、移動や活動がよりスムーズにできると好評です。

「はがき・手紙書き」も、73%の活動率です。新学習指導要領では児童の発達段階を考慮して、児童の言語活動の充実が重視されています。「手紙書き」だけに終わらず、最終日に「自然学校新聞」を作ったり、事後活動として「発表会：四年生に伝えよう」などの活動の充実がなされています。

また、「朝来山登山」も増加しています。特に早朝登山の増加は著しく、雲海展望台からの神秘的な雲海の眺めを期待しての登山が増えています。「自然学校の総括」として、最終

日に「登山」又は「クラフト」を行う学校も多くなっています。

「火おこし」体験を実施する学校も増加傾向です。「野外炊事」前に、「火おこし」を行い、その火で自分達の食事を作ることは学校では得難い貴重な体験となります。

逆に、今まで比較的高い活動率であった「隠れ家づくり」「サイクリング」「テント泊」「ナイトハイク」の活動が減少しています。自然学校期間の弾力化に伴い、天候に左右されやすく且つ活動時間が長いアクティビティは、今後も減少する可能性があります。

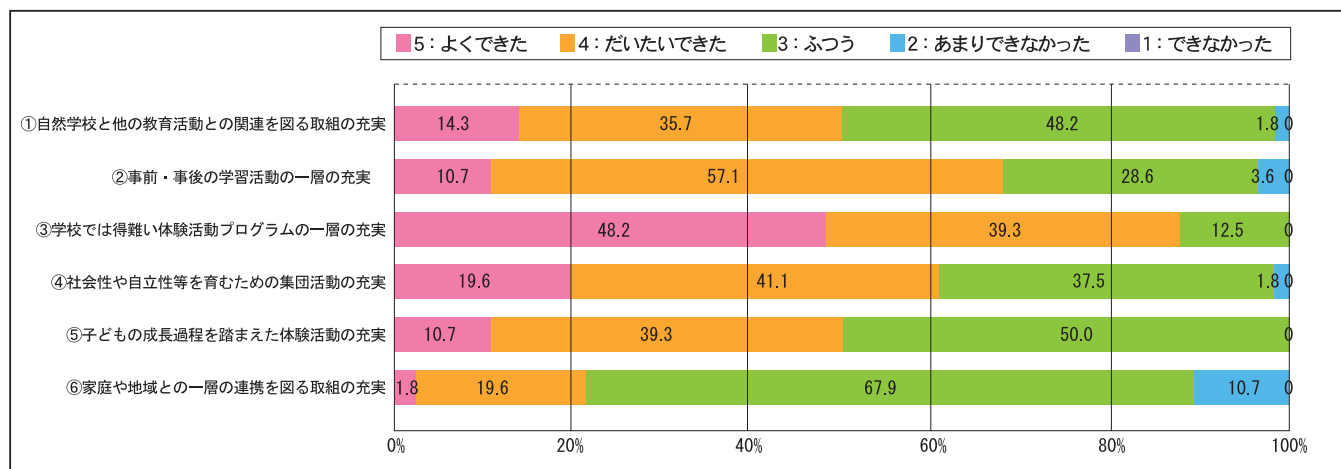
## 4 自然学校実施報告書から見えること

本校では、今年度より自然学校評価検証委員会報告「生きる力を育む自然学校」（平成20年3月）を踏まえ、自然学校の一層の充実を図るための6つの方策について平成21年度本校利用校に対して調査を実施しました。

### 調査項目

- |                          |                        |
|--------------------------|------------------------|
| ①自然学校と他の教育活動との関連を図る取組の充実 | ④社会性や自立性等を育むための集団活動の充実 |
| ②事前・事後の学習活動の一層の充実        | ⑤子どもの成長過程を踏まえた体験活動の充実  |
| ③学校では得難い体験活動プログラムの一層の充実  | ⑥家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実  |

自然学校の一層の充実を図るための6つの方策についての調査結果



調査項目②、③、④については、6割以上、①、⑤についても5割以上の学校が「よくできた」「だいたいできた」との回答を寄せています。しかしながら⑥の「家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実」については、「よくできた」「だいたいできた」との回答が約2割にとどまっています。

調査項目⑥の内容を充実させるためには、「ウォークラリー」で地域に出かけ人や地域と触れ合ったり、「技術指導員」として地域の専門家を積極的に導入するといった取組が考えられます。また、充実した指導体制を確立する観点からも、地域住民等学校支援ボランティアの参画を得た自然学校を推進することが望まれます。

## 5 おわりに

実施期間の弾力化に伴い、効果的な自然学校の在り方等が問われたり、新型インフルエンザの猛威に対処する方法が問われたりと、平成21年度は激動の一年でした。一方、新学習指導要領では、「体験活動の一層の充実」が挙げられています。また、「子ども農山漁村交流プロジェクト」（総務省・農林水産省・文部科学省連携事業）も進められているなど、自然の中での集団宿泊活動の教育的役割は益々重要性を増しています。

平成21年度の成果や課題をもとに、子どもたちが自ら学び、考え、体得する“兵庫型「体験教育」”の充実に向け、よりよい自然学校の方向性を今後も求め、様々な方面へ発信していかなければならないと思います。

（文責 主任指導主事 鈴木文孝）

## 平成22年度 講座・研修会のご案内

### 自然学校出前講座

- 目的** 本校の職員が要請に応じて県下各学校等を訪問し、自然学校や体験活動等の支援を行います。
- 実施時期** 平成22年4月～平成23年3月
- 内容**
- ◆自然学校に関すること
    - ・自然学校の趣旨説明 ・事前相談 ・事前学習 ・保護者説明会 ・事後学習 ・事後相談
  - ◆プログラムデザインに関すること ◆体験学習法に関すること
  - ◆自然とふれあう手立てに関すること ◆人とふれあう手立てに関すること
- 申込方法** 実施1ヶ月前までに「自然学校出前講座申請書」で申し込んでください。



### 自然体験活動1日講座

- 目的** 様々な自然体験活動に係る技術や指導法について研修し、指導力の向上をめざします。
- 対象者** 公立小・中・高等学校(神戸市立を除く)及び特別支援学校教員(初任者研修及び10年経験者研修の校外研修としても受講可)
- 募集定員** 各回40名

| 回   | 期 日             | 内 容        |
|-----|-----------------|------------|
| 第1回 | 平成22年 6月29日(火)  | 実習「自然と親しむ」 |
| 第2回 | 平成22年 10月 5日(火) | 実習「自然を感じる」 |
| 第3回 | 平成22年11月16日(火)  | 実習「自然でつくる」 |

### 自然学校講座(指導者入門・指導補助員養成)

- 目的** 自然学校の趣旨や指導者の役割を理解するとともに、指導補助員等としての基礎的な知識・技術を学びます。
- 期 日** 平成22年8月23日(月)～8月25日(水) (2泊3日)
- 対象者** 大学生、一般県民、公立学校教員(高等学校10年経験者研修として受講可)  
県立南但馬自然学校登録指導補助員、自然学校救急員
- 募集定員** 30名
- 内容** 兵庫県の自然学校について、アクティビティ体験、キャンプファイヤー指導の基礎基本、野外炊事指導の基礎基本 等
- 経 費** 全日程参加の場合 6,300円



### プレ自然学校・アフター自然学校

- 目的** 自然学校の事前・事後体験活動の充実を図ります。
- 期 日** 日帰り又は 1泊2日  
(1)自然学校期間中(4月中旬～12月上旬)  
金曜日、土曜日受け入れ可(金曜日から土曜日にかけての1泊2日も可)  
(2)自然学校期間以外(12月中旬～4月上旬)全日(日曜日～土曜日)受け入れ可
- 対象者** 原則として県下公立小学校5年生とするが、小学校4年生以下のプレ自然学校、小学校6年生のアフター自然学校としても実施可能
- 内容** 施設散策オリエンテーリング、朝来山登山、自然体感ゲーム、野外炊事 等
- 経 費** 施設使用料、材料代等が必要です。
- 申込方法** 「兵庫県立南但馬自然学校利用許可申請書(自然学校以外)」で申し込んでください。



### 親子で自然学校

～親子で南但馬自然学校を楽しもう～

- 第1回** 平成22年12月18日(土)～19日(日)
- 第2回** 平成23年 1月22日(土)～23日(日)
- 第3回** 平成23年 2月19日(土)～20日(日)

**場 所** 兵庫県立南但馬自然学校

**参加費** 食事代、材料費等が必要です。

**対象者** 県内在住の小学生と保護者 10組

**内容** 自然散策、自然物クラフト、星空観察、野外炊事 等

**申込み** 事前に参加申込みが必要です。



### 遊友体験活動事業 (里山遊友体験)

- 第1回** 平成22年 7月10日(土)  
「夏の朝来山をあるこう！」～夏の生き物をさがそう！～
- 第2回** 平成22年10月16日(土)  
「秋の里山をあるこう！」～きのこをさがそう！～

**場 所** 兵庫県立南但馬自然学校

**参加費** 無料

**対象者** 一般県民(子どもだけの参加はご遠慮ください。)

**内容** 第1回 夏の生き物  
第2回 きんのさがし 等

**申込み** 事前に参加申込みが必要です。

